

8/21(日) 10:00~11:04 陽明小学校 参加者 33名 発言者 5名

○…ご質問、ご意見 →…川西市教育委員会の説明

<在籍 保護者>

○説明して頂いた点の順に追って聞きたいと思います。また、児童推計を見直し、柔軟な対応をとって頂けるということについては、30年度をとりあえず見直すことは、すごく評価できる点だと思います。ありがとうございます。統合へのプロセスやこれまでの課題について、2番の統合へのプロセスについて、統合を進めていく過程で十分な理解を得られませんでしたと反省してらっしゃるにも関わらず、今回の今後のやり方として、やっぱり教育委員会の方で手順なりを作って、また説明しますというトップダウン式のやり方っていうのが変わっておられないので、今回、緑台小学校の方ですごく反対運動が起きてたと思うんですけども、反対と言うのは、結局決められてしまっただけでは、反対っていう形ではやりようが無くなるので、その前に協議するという言葉使っているんですけども、実際には今後の予定について、適正化に関する手順を教育委員会で作成した後にもう説明しますということで、あくまで意見は、決まったものに対する反対意見としてしか出てきようがないやり方なことに変わりないと思うんですね。今回、反対運動が大きくなって、緑台小学校のお子さんたちとか、陽明小の保護者としてもすごく心理的にしんどいこともたくさんありました。その部分について3回目の説明会で、教育長さんはじめ皆さん、すごく申し訳なかったという言葉をかけて頂いたんですが、今言われたやり方だと、結局同じことになっていくと思うので、これまでの課題についての統合へのプロセスで十分な理解が得られませんでしたということで、説明プロセスについても合意形成が、教育的視点での合意形成を図ることが出来ていませんでした。せっかく実態を良く見て頂いているので、それにも関わらず今後の対応として、こちらで考えます、また説明しますという形のトップダウン式というのは違うんじゃないかなと。

本当に現緑小の保護者さん陽明小の保護者、地域の方はもちろんですけど、もっと言えば先生方とか、教育委員会、なんていうか、雇われている立場だからものが言えないというのではなくて、本当の実態としてどうなのかとか、今後まちづくりとして地域の方にしてもどうしていきたいのかということ、コミュニティ、自治会、PTAっていう、役職の一部の人たちだけの議論ではなくて、どの人もみんなが考える、反対とか言ってしまう前に、いいのか悪いのか以前にちゃんと本来どうあるべきかというのを一人一人がもっと考える機会というのが必要だと思うんです。

猪名川町のもっと小さい規模の学校に行っておられる保護者の方にお話をお聞きしたんですけど、教育委員会と市の方と保護者と地域の方とで、少ないんだけどこれからは減っていくんだけど、どうしていきたいですかという話し合いをこつこつ重ねておられるということをお聞きして、やっぱり原点そこじゃないかなと思いました。教育委員会はもちろん先生ご出身の方などで、教育的な視点で専門ですから任せてくださいと言われるかもしれませんが、やっぱり子どもたちを見てる保護者とか、ずっと愛着を持って住んできているまちの人間という視点では、やっぱり机上の空論になってしまいがちだと思うので、教育委員会さんの出されたリーフレット見ましたが、「ふるさと川西に誇りを持ち、地域や文化、自然とともに生きる人を目指す人間像」と挙げられて、すごく色々良い事書かれているんですけど、教育長さんも以前に郷土愛ですとかそういうようなお話をされてて、地域を大切に思う心みたいなことを言っていたと思うんですね。やっぱり小

学校って、人数減りました、じゃあくつつけましようっていう機械的なものではないということは、私が言うまでもなく皆さん分かって頂いているとは思いますが、もっと深く、本当にそれでも地域として必要だなとみんなが、大多数が思うくらいだったら、それはそれでいいと思うんです。統合ありきで、人数どれくらいになったら統合します。ではなく、これも答申、26年度の答申で決まっているので、その趣旨は変えませんということで、それを持って、適正配置とおっしゃった時に、それイコール統合っていう形ばかりではないように、文部科学省の適正配置等に関する手引きっていうのを読ませていただきましたらイコール統合でもないし、もっと言わせていただくと、全国的なレベルで少子化が進んで統合が進んでるってことで、あまりこういう事に興味を持つ前は、減ってきたんか、そうなんやな。っていうくらいで昔と比べたら減ってるな。とって済ませてる保護者もほとんどだと思んですけど、よくよく勉強とかさせて頂くと、もっと小さい規模でほんとに複式学級とか全学年単クラスとかなっているようなところは、小規模学校の良い所として生かしていく、統合なのか早めに考えてくださいね。っていうことになって、まだまだ300人規模の所が200数十人とかと言ってもまだ全国的にそんな話で統合っていうのは珍しいっていうふうになんかちょっと勉強させていただく中で聞いたこともありまして、ちょっと単クラスが1つ出現したら統合します。という方針かわからないですけど、26年度の審議会の答申は、そういう方針ではないように、この資料からは見られるので、本当に適正化、もっと少子化になってきました。さあどうしましょう。といった時にイコール統合じゃない形も含めて、もっと地域の方と両校の保護者とかで、根本のあり方っていうのをそもそもどうしていくべきかっていうことをまちづくりの観点からも、少人数でも2校あったほうが、もっと人を呼べるよねとかそういうこともありうると思います。統合の方針は変えませんかかってること自体が前の課題の反省を活かしきれてないように思います。児童推計を検証していただくので、減らないということであれば、一旦統合方針を変更しない、清和台と緑台地区はいずれは統合するんだよっていう方針は置いておくという自体が矛盾しているように思いました。絶対統合の方向っていう一本道だけが示されてるように、この説明では見られるのと、跡地利用についても、統合決定後まちづくりとは、分離した関係ではありませんっていうのは、私もその通りだと思います。それだからこそ、逆に統合決定後じゃなくて統合するのにかしないのか、するとしたら、統合した跡地は何に使うのかという事も、一緒に議論していかないと、いいまちづくりは出来ないと思うんです。学校って本当に子どもの小さいうちは、活動エリアが小さく、小学校ってすごく大事な位置づけを持っていて、あと私もそうですが、親世代もグリーンハイツで3世代同じ地区に住んでると、こういう新興住宅地として建てられて今変化のときを迎える川西が今後どうしていくかといった時に、Uターン組というのはすごく大きいと思うんです。そうなった時に出身校が消えてしまった地域って悲しくて戻ってこれないとかやっぱり2ついるかなと思います。個人的な意見ですけど、色んな意見をもっとくみ取った上で適正化を考えるっていう必要な所にイコール統合というんじゃなく、まちづくり全体という中で統合後に跡地はどうするか。ただ建物と土地だけの機械的なことではなく、地域を愛する子どもを育てるって言いながら、小学校の跡地っていうのは、特別な物なんで、それは統合が決まりました、そのあとで、地域の方と話しますねというようになって、それこそ切り離せないものと思うので、その分についてもちょっと考え直していただきたいと言うか、これまでの課題についての1、2、3として反省されているにも関わらず、2番の統合方針を変更しないっていう事と4番の跡地は統合決定後住民と協

議するっていうことと決定後のトップダウンっていうことと適正化に関する手順を作成した上でまた説明会をしますと変わっていないことについて、ちょっと課題に反省を踏まえて、言っていることと矛盾しているように思いますので、その辺のご意見を考えをお話し下さい。すいません。長くなりまして。

→貴重なご意見ありがとうございます。まず一つ目ですけれどもトップダウンが変わらないんじゃないか。っていうお話をいただいたところです。ちょうど説明させて頂いた3番目、学校配置の適正化に関する手順の作成に中の3番目のところで協議の進め方っていうことで、少し簡単にですけどね、説明させて頂きました。その中で、やっぱり地域の方とか保護者の方の意見を聴く機会が今までは非常に少なかったんで、その辺を改めていくっていう事で、今具体的にね、どういう形でいつ何がっていうことをお答え出来ないんですけども、いろんな地域から、例えば両小学校区同時に説明会をしてください。とかそういうご意見を伺ったりとか、あるいは場合によっては統合について、言葉が適切かわからないですけど、皆さんで話す学習会的なことをするとか、あるいは場合によっては、小学校の保護者を対象、あるいは就学前の方対象とか、色んな形でお話を伺っていくというそういう機会は必要ではないかなというふうに考えていますので、具体的にいつということとは言えないんですけども、そういったことでやっぱり今後の手順の中でも組み入れながら一緒に考えていくという、そういったところを考えております。

それともう一つは手順そのものがトップダウンじゃないかということなんですけども、一番最後のところで、手順案という形で示させてもらってます。決まったものの提示ではなく、こういうふうに進めていきたいと考えてますということで、案という言葉をつけさせて頂いております。そういったことで進めていきたいと考えておりますので、色んなところで、意見を吸い上げる機会を作りたいというふうに考えております。

それから、両地区における統合方針は変更しないということで、教育委員会としましては、やはり学校規模の適正化、適正な規模っていうのはやはり、単学級が数年続いていくっていうことについては、やはり教育上色々と課題が出てくるのではないかなというふうにとらえています。先ほどの説明にもありましたけども、統合年度がいつということは、現時点では、今後もまた再検討していくということですけども、中長期的に見たときに、やはり単学級そのものが続いていくような状態があるのであれば、やはり、統合ということは考えていけないといけないのではないかなというふうな立場で書かせて頂いております。それから、決定後のまちづくりの件ですが、教育という視点から、統合を進めていってる訳ですけど、当然その裏側にはまちづくりとも関わっていますので、ここでは決定後という書き方をしていますが、実際に動きだしていくのは、決定をしたときになると思うんですけども、色んな所で、同時並行に進めていくものでないかなというふうに考えています。そういったところで、ご理解いただければと思っております。

○すみません。今のお返事をお聞きして、もう一点ちょっと確認ですが、単学級が数年続くのは、問題であるから、その統合っていう方針は変えないということなんだと、おっしゃったと思うん

ですが、そもそもそれが決定だということ自体が、校区審議会での答申ということをすごく重要視されてるみたいな感じですけど、校区審議会は実際地域からは1人しか選出されてなくて、たまたまだと思うんですが、輪番制で回っていくことだと思うんですが、全然地元の意見が十分反映されたものとは思えないっていうことかというと、やはりそこも、もう一回改めて、そこから意見を言わせて頂く機会ってというのが、保護者とか、地域の人たちそれぞれにそれについて、どうなのかを言う機会はないんでしょうか。それがそもそもやっぱり反対っていう形でしか、運動が出来なくなってしまっていると思うので適正規模イコール単学級が1つでも、数年続くと、それは統合という考え方そのものから、やっぱりもっと文科省の指針でもありますけども、地域の人を含めてだけれども、保護者とか一番わかっている、実態を感じている人たちの意見を十分に聞いて行われるべきであるって書かれているところの一番大元だと思うので、そこからもう一度振り返って皆の意見を吸い上げて頂かないと手順案を示して頂いて、皆さんが意見をいう機会が出ますよといった人がそこを変更しませんと言われちゃうと、多分手法のことではしか話が持っていけなくなってしまうと思うので、本来本当にどうしたいのか、どうあるべきと皆が思っているのかという事も考え直していけるチャンスはないんでしょうか。

→これから先のことなんですが、先ほど説明させて頂きましたけども、ひとまず、統合年度については再検討させて頂きます。これはもう明確にしました。それから新たな児童推計方法を検討のうえ、どの段階で適正配置措置をするか再検討しますということで、それは次のステップです。まず、社会増の要因、引越しの要因を数えないってというのは、間違ってたかと言ったら、そうではないんですよ。あまりにも読みが出来ない内容なんで、これまでも不安定要素として組み入れないということで、これまでも継続的に統計してました。ただ、明らかに時代は変わってきて、例えばこのあたりでしたら、街の様子はいい割には不動産価格は下がってきたということで若手の方が買いやすい状況がバックにあります。そうすると、やはり今までの統計の読み通りに進みません。それをやはり、きちっと把握したいと考えております。そういった意味で推計方法についてちょっとお時間いただきたいと。

そうしますと、次に推計方法でいったいどのような状況になったら適正配置、統合も1つの方法です。それ以外の方法も多分出てたと思います。どのような状況になった時に、どうしましょうか。っていう猪名川町さんがやっているようなことに時間を使いたいと思います。たった1年で済むとか、そんな話ではないと予想されます。しばらく、そういう意味で小さな会議であるとか、勉強会であるとかでお話しさせていただいて、その時に協議というか、実際こうあったらどうなんだろうとかねとか地元さんの意見もありますし、常に縮小でマイナスイメージばかりですするわけにはいきませんから、一方で、つい最近読売新聞の朝刊にも出てましたけど、人を増やす方法っていうのは市長部局で進めております。そういった流れもありますので、いろんなこと考えながら前に進めたいと、そういう意味で統合校や統合年度を新たに決まったという、そういうわけではありません。この説明会は、さらに検討加えていきたいんですよ。ということを説明する場として、設定させて頂いておりますので、そのように理解していただきたいなと思っております。

<地域の方>

○まず1つ一番最初に質問をね、受けて下さるときに、名前は名乗らなくていいと、どういう立場だけとおっしゃいましたけど、緑台の説明会もここも、ずっと出来る限り出ておりますけど、やっぱり質問に責任をもつという意味ではね、しっかり名前を聞いて下さらなきゃ困ります。そんな気がするの。緑台とここ全然温度が違いますし、特に緑台ですとね、色んな意見を聞かされますので、なおさらね、お名前を伺って欲しいと思います。まずそれがひとつ。

それと先ほどから、ご質問された方、お名前は別としてね、反省、教育委員会側が反省と使われましたけど、その反省って言葉を考えたときに、やっぱり受け手である私たちもちょっとね、反省しないといけないんじゃないかな。と思うことがあるんです。それは並行してまちづくり、当然そういうふうにも皆も頭の中で思うんですが、現実今回、並行してまちづくり、なんてことは、とてもできなかった状況がありましたよね。なんか跡地がなんかになるんだみたいな話がひとり歩きして、そのことで、ものすごい紛糾しましたよね。だからその辺りはやっぱり受ける側も地域という意味ですけど冷静に受け止めて今後、展開していかなければならないと思うんです。やっぱり統合問題とこのまちづくりは切っても切れないことですから、冷静に受けとめて、何回も言いますが、進めていかないといけないと思うんです。それと、元々陽明さんは受け手の側の学校だったということもあるのか、わかりませんが、参加する方が、まあ色んな事情があるんでしょうが、少ないですよ。なかなかね、地域全体で色んな立場がいる中で、ここには人口が15,000弱いらっしゃいますけど、やっぱり一生懸命になって頂くのは保護者の方です。それと今後子どもさんを小学校にとか幼稚園にって考えての方が中心になって考えて頂かないと、もう私たち5年後10年後15年後はいなくなるような人間で一生懸命になったところで綺麗な花は咲かないと思います。だからやっぱりここに何かPTAの方いらっしゃいますけども、今後この話がどうなっていくかわかりませんが、やっぱりPTAの方に中心になって頂いて、この話をいい方向に進めていっていただけたらと思います。以上です。

<地域の方>

○ひとつはですね、この説明の中で欠けてる所があるのかなと思うのは、何のために統合するかということですね、述べられていると思うんですが、それを具体的に示していく必要があると、単学級ということだけをしていくのではなくて、全体を考えたときにこうなると、案を示しますということをやっていますが、その中でですね文科省のそういう指針というかそれもあります。その中で、川西はこうするんだということを示していただいて、それがひとつの判断基準になるように是非していただきたいと思います。そうしないと、単学級になる年が30年が31年になった、だから延びますというような、そんな単純なものではないと思います。もっときちとした基準を示して頂きたいと、そしてそのことについて地域がああそうかというふうな答えが出るようにして頂きたい。以上です。

→ありがとうございます。今おっしゃった所、本当に大きな川西教育の動き、目標があって

も、この学校の先生もこの地域においては、考えてるところです。

まさに基本理念においてもですね、地域と人の輪でつくる川西のですね、未来に向けての子どもたちも大人も一緒に学び合う教育を推進していくということを大事にしていきたいと今おっしゃったことがひとつあります。

2つ目に子どもたちの一人立ちをきちっとさせてあげたいというのがあります。あとは命と人権です。そして自分自身の自己研鑽と世界、社会に貢献できるそういう子どもたちを育てていきたいという大きなですね、目指す人間像を持って、今も進めているところです。

その中で今回統合のことが出ました。いつかご意見がある。どちらがいいか。小規模と中、大規模を比べたときにですね、一定の学年を考えたときに例えば2学級以上あって、最低クラス替えが出来る程度の学校を作りたいと、確かにじゃあ10人でいいのかと。単学級、一学年が10人。例えばですね、そういう状況があった時に6年間そういう状況の中で子どもたちの育む中で、考えたときに、やっぱり一定規模の6年間見とおした時に、子どもたちがお互いに切磋琢磨出来る、行事についてもですよ、20人の子どもが半分ずつとして、運動会とかそういう行事ひとつとっても、一定の制限があると、そうしますと、その全体の学校規模もありますし、1学年の規模の一定ある中で、子どもたちが、育てていく大事さがあってですね、やむを得ない状況の中でそういう状況が来たらこういう方向も考えていかなということに進めてきたんですけど、いいものなんです。グリーンハイツの中で今、考えてみたらですね、2つの小学校が11学級程度で動いてたんですけど、それが、最低適正規模の12学級以上のところが維持できるかもしれないと。それは親元近居助成制度もありますしね、地域にとって、地域分権の中でこういう取組を地域を挙げてなさっています。地域分権です。地域計画を合わせて、この中に若い世代も入ってほしいとか子どもたちの教育についても一生懸命やっていきたいということですね、グリーンハイツの地域の計画の中に載せて数年続けていただいて、こういったことも一点功を奏して、子どもたちの推移、児童数が維持、または理想かもしれないけど、そういう状況が保たれてる中で、あえて教育委員会としてですね、これを統合することを進めていくことが1対1ではないですから、市全体としては市長をはじめ、まちづくりについて、若い世代に帰ってほしいということをおりますし、その方向で地域づくりをしています。学校教育としてはですよ、その方向で人づくりをしていっている訳ですけども、いかんせん、そういう状況が来たときには、言うことは一定背景になって昨年度動いてきた訳ですけど、そうじゃない状況が少し見えてきたということで、もう一度立ち止まってですね、この統合についての再検討ということをして頂いて、教育とまちづくりの両方の視点でこれから進めていきたいと、その中の手順として、今やりました。手順ということは、確かに教育委員会の事務局の方で、もう一度きちっと作成させて頂こうと思います。そのときには、校区審議会においても、専門家の先生と地域と学校関係とPTAの方々が入って、平成6年度からスタートしてるんです。平成6年度以降審議会が出来てきて、その時に1回目のこの緑台地区において、していました。それから16年になって今回来てるんですけども、そういう流れの中にですねこの定義については、実際作った後に地域の方々のご意見を聞く中、作る途中でもですね、色んな形で、ご意見を聞いてこの手順については作っていくことになろうかと思います。その面ではですね、先ほ

ど担当が話をしましたけども色々な角度で地域の方々のご意見、保護者のご意見を聞きながら当然一本筋としてはですね、統合については、将来的に考えても、そういう状況にというのは来るだろうと、やむを得ない状況はあるだろうということを踏まえた上で、今回説明会をさせて頂いております。十分手は尽くせませんけれども、そういう状況の中でですね、今から進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

<地域の方>

○以前までの説明では、一応その小中一貫と、そういうことを目玉にしてですね、その陽明小学校に統合するという話が出てました。今回の資料見ますとね、統合する方針は変更しませんと。その中で、学校配置の適正化に対する手順と作成についての中で、カッコ2番でですね、統合する学校の選定方法ってのがありますね。そこで、新たな児童推計方法に基づき、選定方法を再検討します。っていう事になってるんですが、この文字はですね、今までの陽明小学校に統合するという方針を白紙に戻すというような意味ですか。いわゆる再度、陽明か緑台か再検討します。そういう意味でしょうか。

→今、ご質問頂いた小中一貫ということですが、これについては、統合も含めましてね、小中一貫ということは、今後も進めていく、これは多田グリーンハイツ地区に限らず、全体的に小中一貫あるいは連携ということは進めていく、そういう流れで考えております。統合先が今後、今現在、陽明小学校っていうことになってるんですけども、それが変わるかっていうことなんですけども、現時点では、今後の手順の中で示させていただくということになりますので、統合年度が決まらないことには、当然その統合する年度が決まった時点における状況っていうものがございまして、この時点で決めてしまうってことになると、統合をする時点での状況にうまく合うかどうかということも考えられますので、その時点での教育上の色々な観点あるいはひょっとしたらまちづくりという観点も入るかもしれませんし、あるいは色々な児童数であったりとか立地条件と色々なことが総合的に検討した中で、最終的に決めていかなきゃいけないということでこういう文言を入れさせていただいております。以上です。

○そうすると、その今の話ですと、将来の状況を見据えながらですね、その統合する学校を選定をしていくということで、今まで陽明小学校に統合するという、その方針についてはですね、それは今のところ、ちょっと白紙に戻しますよ。とそういうことなんでしょうか。

→現時点では白紙という表現は適切ではないなど。今現実においては、陽明小学校の方で統合を進めるということが残ってますが、手順の中で、今後変わってくるということになりますので、現時点では、その手順を見ての判断っていうか、手順の中で示させていただくということになると思います。

<地域の方>

○統合年度をちょっと見直しという話が出てるんですけども、実際いつぐらいにその統合年度というのは、決まるんですかね。それが聞きたいです。

→統合年度はいつになるかということで、一応手順の方が出来上がった段階で、手順そのものをどういう形で統合していくのかっていう手順になりますので、それとやはり推計もしっかり見直していかないといけないということで、少しお時間をいただきたいと思っています。ただ、いつまでも引き延ばすというつもりもございませんけれども、現時点ではっきりと、この時点ですべてということは、お答えできないですけれども、だいたい年度内くらいを目標に手順の方は作成していきたいというふうには考えております。

終了